

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101849		
法人名	医療法人 萌梅会		
事業所名	総合介護センター あおぼの里	【ユニット名:さくら】	
所在地	和歌山市湊1115-55		
自己評価作成日	平成29年7月12日	評価結果市町村受理日	平成29年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3070101849-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成29年8月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした庭がある木造2階建てでレンガ風の緑の屋根のグループホームです。庭には季節の花やびわ・みかんの木などがあり、収穫し美味しくいただいています。天気の良い日は庭にでて、花を見ながらお茶を楽しまれたりもしています。又、花見や回転寿司・ドライブ・買い物等にでかけたり、季節行事の料理にも工夫をこらしています。ボランティアの来訪も増え、特にボランティア犬モカ吉君の来訪は利用者様の楽しみの一つで犬とふれあい笑顔が絶えません。医療面では提携病院から定期的な往診、緊急時の対応・入院の受け入れなどの体制を整えており、安心して生活を送っていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

木造2階建の3ユニットのグループホームで建物の1階にはデイサービスが併設されている。広い庭には多種の花や果物の木が植えてあり四季折々の楽しみがある。全体的に開放的な雰囲気、他のユニットを訪問したり、玄関先で栽培野菜の世話をしたり、リハビリ室で運動したりと、利用者自らが自由に行動できることを大切にされた支援が行われている。各ユニット内は家庭的で生活感のある雰囲気、和気あいあいと家族のように暮らし、仲間と団らん出来る共同空間となっている。同法人が運営する病院との連携が密にとられているので医療面の安心が得られている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念の共有に努め、スタッフ一人一人が理念に基づいたケアを実践している。	常に意識できるよう職員の控室に理念を掲げている。理念の根本としての、人を尊重し大切にすることを、管理者は日常の業務の中で職員に示し共有を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の方と交流している。運営推進会議の際には、地域の方や利用者を交えての交流を行っている。	近隣の陸運局が開催する祭りに毎年出かけている。自治会に加入しており、運営推進会議に自治会役員も加わり連携が図られている。デイサービスと合同で行われる事業所の催しには地域住民の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方と利用者の交流を通じて、認知症の方への理解や支援の方法を、地域の人に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出された意見は、リーダー会議で話し合い、サービスの向上に活かせるように努力している。	利用者、家族、地域包括支援センター職員が主な出席者で、2か月に1回開催されている。自治会役員など地域住民の参加もみられ、近況報告や行事予定を中心に様々な話し合いがもたれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと市役所の担当者とは、サービスについてのアドバイスをもらうなど、協力関係を築くようにしている。	地域包括支援センターを通して連携を図るとともに事業所の実情を知らせ、協力関係を築いている。また、生活保護課とも協力関係を持ち利用者を支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのケアを実践している。玄関・ユニット間・エレベーター・居室は施錠せず、利用者は自由に行き来できるようにしている。	身体拘束しないで利用者の安全を確保できる支援を心掛け、安全のためにベッド柵で転倒を防いでほしいとの家族からの申し入れにも、話し合いの機会を持ち、身体拘束に当たるので、できない旨を伝えている。	家族の申し入れには、「規則」だからできないと伝えるだけではなく、拘束がもたらす弊害、安全確保の努力なども伝え、より一層家族の安心と理解が得られるよう言葉を尽くすことが求められる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待につながらないよう、お互いに注意を払い、ケアの方法や声掛けの方法を話し合い、共有し、実践につなげている。		

【事業所名】総合介護センター あおばの里【ユニット名:さくら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度は、管理者が研修を受講し、職員に伝達している。又、日常生活自立支援事業や成年後見人制度の活用もしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族に十分な説明を行い、不安な事や疑問点は理解・納得できるまで、説明している。解約時も同様である。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に、意見・要望などを聞くように心がけている。又、直接言いにくいことがある場合は、玄関に苦情受付箱を設置し、速やかに対応するように心がけている。	家族の意見が聞けるように、話しやすい雰囲気となるよう常に心がけ、意見や要望に添うことで「ここに入居してよかった」を実感してもらえるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員から出された意見や提案を検討し、運営に活かせるよう対応している。	職員の声を大切にし、納得が行く話し合いを持つようにしている。パート勤務もあり職員数が多いので全員が会議に出ることは難しいが、毎月の会議で職員の意見を聞き運営に反映できるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を評価し、向上心を持って働けるよう職場環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促し、取得した知識は施設内においても伝達している。法人内外の勉強会への参加もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設や同業者と交流したり、研修等に参加し、ネットワークを広げ、サービスに活かせるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所するにあたり、環境の変化への不安を少しでも取り除けるように、話し合い、信頼関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	安心して家族を預けることが出来るよう、不安に思う事や困っている事を言いやすい関係性を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話をよく聞き、必要な支援を見極め、提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に過ごす時間を大切に、適切な距離感を保ちながら、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、日常の様子や出来事を常に報告している。面会時は、一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のこれまでの人生を知り、希望する場所に同行する支援に努めている。	ユニットごとの専従でない職員はがほとんどで、たくさんの職員が関わるので、職員との馴染みの関係は築きにくいですが、ユニット内の利用者が、家族のような馴染みの関係となれる親しみのある関わりがもたれている。	少人数単位を活かしてユニット内での馴染みの関係を作っていくためにはユニットごとの職員の配置が望ましく、専従職員の確保が望まれる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、スタッフが間に入る等、関係性が崩れないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、必要に応じて、相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を把握し、利用者本位、その人らしい生活ができるよう努めている。	利用者の声をよく聞き、表情や態度からも利用者の気持ちを察することができるよう努めている。一人ひとりの利用者が望む暮らしができるよう、利用者が決める機会を用意して取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話から得た情報や、家族からの情報を、スタッフ間で共有し、その人らしい生活ができるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人、それぞれの過ごし方、心身状態を常に把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がベストな状態でいられるように、本人を含め、職員や家族と話し合い、介護計画を作成している。	半年に一回定期的に計画を見直している。途中見直しの必要があれば各職員の意見を聞き、家族には訪問時や電話で希望を聞き、利用者にとってより快適な暮らしができるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果・気づきを記録し、スタッフ間で情報の共有に努めている。変化があれば、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	できる限り、利用者や家族の状況やニーズに応じたサービスの提供に取り組んでいる。		

【事業所名】総合介護センター あおばの里【ユニット名:さくら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアに来てもらったり、地域のコンビニやスーパーに買い物に行ったり、暮らしを楽しんでもらえるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している病院から定期的に往診を受けている。提携病院・歯科以外の受診希望は、本人や家族の希望に任せ、他の医療機関を受診している。	殆どの利用者が協力医療機関をかかりつけ医に希望して週1回の往診を受けている。歯科・眼科の専門医にかかる利用者も往診を受けることができている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院から看護師や理学療法士が定期的に訪問し、健康管理や適切な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から、主治医・看護師と連絡を密にとり、利用者が入院した時は情報を共有し、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族と話し合い、状況に応じてその都度確認しながら支援している。	系列の協力医療機関と連携して看護師が毎日巡回しており、胃ろうや吸引などにも対応できる資格を持った介護職員もおり、希望があれば終末期にも対応できる体制がとれているが、未だ施設内での看取りは無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修に参加したり、急変時の対応等は、常に話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を受けている。避難場所や消火器の場所の確認も行っている。	事業所独自に定期的な避難訓練を行っている。地域の避難場所への移動が困難な利用者もいるので、自治会の役員を交えて運営推進会議で災害時の対策について話し合っている。	避難訓練時には消防署の協力を得て具体的な指導を仰ぎ、より安全に避難できる備えができることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が利用者を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけができるよう心掛けている。	利用者の今までの経験を大切に、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。自分がされて嫌だと思わないように気配りし、相手を尊重して気持ちを込めた言葉がけをするよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人が気兼ねなく、思いや希望を表せるよう接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを大切に、その思いに添えるよう一人一人のペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着たい服を選び、整容している。美容室の出張サービス利用し、本人の意思で髪型を決めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、ケータリングや外食も取り入れている。配膳や片付けも共に行っている。	調理は業者委託で厨房から運ばれるが、各ユニットで温めや盛り付けを行い、和やかな食事風景である。箸はそれぞれの利用者のもを使用し、食器も家庭的なものが食器棚に用意されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合わせて食事の量や形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。		

【事業所名】総合介護センター あおばの里【ユニット名:さくら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表で一人一人の排泄パターンを把握して、声掛けを行うことにより、トイレで排泄できるよう支援している。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが、排泄パターンを把握して、さりげなくトイレ誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排泄表を活用し、水分摂取量を増やしたり、運動をしたりして予防している。本人に合った下剤も処方してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に入浴日は決まっているが、希望に応じて対応している。	週2回を基本に入浴できるよう支援している。「一人で入浴したい」「夜間に入浴したい」などの要望にもできるだけ応じるようにしている。必要な利用者には1階に機械浴の設備がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて午睡をとったりしている。夜間、眠れない利用者には昼間の運動量を増やしたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者がどんな薬を飲んでいるかすぐに確認できるよう、ファイルを作成。誤訳の無いよう、名前を確認してから服薬してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事や、買い物・外食・ドライブに出かけている。家族に馴染みの嗜好品を持って来てもらったり、気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を見ながら、戸外へ散歩に出られるよう支援している。家族にも個別で外出してもらえようとしている。	花見には全員で出かけ家族の参加もみられる。ドライブや買い物のほか、回転ずしなど外食に出かける機会も設けられている。広い庭があり日常的に外気に触れ、花や果物を楽しむことができる。	

【事業所名】総合介護センター あおばの里【ユニット名:さくら】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で管理している。買い物は職員と一緒にいって支払いの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、時間や相手の配慮を考えて、可能な場合はかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある装飾をしたり、家庭的な空間づくりに努めている。庭が見えるように日中は障子を明け、季節の花を飾ったりしている。	共用空間は一般住宅のような作りで、生活感がある家庭的な雰囲気である。廊下の居室ドアの名前の表示にはすべて折り紙で作った華やかな飾りが施されている。装飾は折り紙で作ったものが多く、周囲の雰囲気にそぐわないところもある。	折り紙の画一的な装飾が多いが、日常の暮らしの中で、利用者が自宅の延長として暮らせる住空間の装飾としてふさわしいものを今一度検討することが望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の居室でゆっくり過ごす時間や、リビングで他の利用者や職員と会話したり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や布団を使用し、写真を飾ったり、今まで通りの暮らしに近づけるよう工夫している。	各居室に洗面台と収納スペースが備わっている。きちんと整理整頓され過ごしやすく行き届いているが、馴染みの私物はあまり見られず、新たに用意された衣装ケースなどを置きよく似た雰囲気の部屋が多くみられる。	利用者それぞれの好みを重視し、思い出の品や趣味の作品などを持ち込み、プライベートなスペースにその人らしい居心地の良さが感じられることが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のニーズの把握に努め、安全な歩行や暮らしができるよう、家具の配置を考え、できる限り自立した生活が送れるように工夫している。		